

実践マップスキル研究会通信第13号をお届けします。大阪市で開催された第28回“マップスキル講座大阪大会（2019年12月27日実施）”に参加された先生方のご感想を掲載いたします。（五十音順、敬称略、所属は講座開催時）

第28回 大阪大会 マップスキル講座に参加して

大阪市立成育小学校 教諭 浅野 美波

この度は、このような執筆の機会を与えてくださりありがとうございます。この文章がみなさんのご指導に役立ってますようお願いしています。

「47都道府県の位置と名称を理解すること」。この学習内容は第4学年のものです。この学習内容であれば、「行ったことのある都道府県は？」と子どもたちへ投げかけ、エピソードなどを引き出しながら都道府県をいくつか板書し、地図帳の日本地図をひらかせ、白地図に47都道府県の名称を書き込むような調べ方をさせたことがあるのではないのでしょうか。私にもそのような経験があり、その後、歌にして覚えさせることもありましたし、どれくらい覚えているか競争させ、シールでご褒美なんてこともやりました。ただ、これだけでは、機械的であったり、競争心を駆り立て覚えさせたりしただけであるといえるでしょう。正しくは、「自分のこと」として捉える機会が必要で、それが、「調べたい、考えたい」という意欲を湧かせ、調べたこと、考えたことを伝え合う中で、47都道府県の位置と名称を深く理解できるのだと考えます。では、今回は、寺本潔先生のご講座の内容を、私の指導方法に組み込みながら

学習内容を達成できる指導法をお伝えします。

ところで、みなさんは社会科の1時間をどのように構成していますか？私は、①学習問題を「つかむ」、②学習問題を解決するために社会的事象を「調べる」、③調べた社会的事象と関連付けながら社会的意味を「考える」、④調べ考えたことを「ひろめる（学習の振り返り、次時の学習へつなげる問いかけなど）」という4段階の問題解決学習を行っています。また、単元の第1時には学習計画を立てるようにもしており、その場合は「つかむ」「調べる」「（疑問に思ったことや調べたいことなどを）考える」「ひろめる」というようにしています。

寺本潔先生からご指導を受けた「観光地＋動詞＝楽しみ方」は、上記の単元の第1時、学習計画を立てる際の「調べる」段階でいかされます。寺本潔先生の指導方法は、人差し指の爪に目を書き込んだ丸シールを貼り、地図上で旅をさせるというものです。まず、子どもたちを4人グループにして、旅行したい地方を決めるようにします。次に、大判用紙に地方の地図をかくようにします。そして、一人一人が、グループで決めた地方の地図上を丸シールの着いた指先で旅をするようにし、「○○で○○をする。」という旅行プランを短冊に書き込みます。最後に大判用紙に短冊を貼り、観光する順番を決め、クラスに伝えるというものです。これを「調べる」段階にして、「考える」段階では「疑問に思ったこと調べたい



開催事務局による大会テーマと講座の趣旨説明

ことは?」などを問うと「各地方によって特色はあるのかな?」、「〇〇県についてもっと詳しく調べたい。」などの問いをもつようになると思います。これらの問いを次時以降の学習計画にし、問いを解決する中で47都道府県の位置や名称を深く理解できると考えます。

マップスキル講座受講後、5年生のクラスでこの指導を行いました。印象的だったのは北海道地方を調べた子どもたちの姿で、「網走で流水が見たい」「阿寒国立公園でのんびりしたい」など大阪府から遠く離れた地方について適切に調べ、その発表を聞いた友だちも北海道地方に興味関心をもった様子でした。一方で反省点もありました。大判用紙に地方の白地図をかく活動に時間がかかりました。また、旅行したい地方を生活経験から選ぶ子どもが多く見られました。例えば、関東地方のことをよく知っているようで、デイズニールランドなど、地図帳を開く前から旅行先が決まることがありました。このことから、大判用紙は地方の白地図を拡大コピーしたものに、関東地方は、教師の模倣で使うなどして、他の地方に目を向けさせるようにすればよいと思いました。

今回は、寺本潔先生のご講座について述べさせていただきましたが、先生方のご講座はどれも「調べる」段階でいかすことができると確信しています。こんなに楽しい調べ方を教えていただき感謝しておりますし、私の一生の宝になったと思います。

何度参加しても新しい発見がある講座

東大阪市立花園北小学校 教諭 澁谷 友和

前回、奈良でマップスキル講座が開催された時に参加して以来、今回の大阪大会で2回目の参加になります。2回目の参加を決心したのは、いよいよ4月から本格実施される新学習指導要領で、3年生から地図



寺本潔先生による3年生の地図指導講義



田部俊充先生によるドットマップ講義

帳を活用することになり、その指導のポイントを学ぼうと考えたからです。

寺本潔先生の講座は、生活科から3・4年生の地図指導にどうつなげるかというテーマでした。寺本先生は、3年生の地図指導では、まず8方位を一気に教えた方が効果的だということで、8方位体操指導法を教えてくださいました。受講生みんなで8方位体操をしたのですが、応援団のような振り付けでなかなか格好よく、子どもたちもノリノリで覚えてくれそうな体操でした。また、観光を題材にした地図の活用も体験しました。「観光地+動詞」指導法です。グループでこの作業をしたのですが、「秋田県の男鹿で温泉に入る。」など、大人でも楽しんで作業することができました。

田部俊充先生の講座では、統計資料から統計地図を作成する例として、ドットマップの作成を体験しました。白地図にドット棒を使いドットを捺していく単純な活動なのですが、ドットを捺するのが楽しい。捺し終わると統計地図が完成しました。今回はみかんの生産量をドットマップにしたのですが、分布の範囲などの傾向が一目でわかる地図になりました。

岩本廣美先生の講座では、グループに分かれてフィールドワークを行い、その調査結果を地図で表現することを行いました。自分たちのグループでは防災をテーマに、「落ちてきそうなエアコンの室外機」を数えてみようということで、会場のアウィーナ大阪周辺を歩きました。アウィーナ大阪周辺は、新しい建物が並ぶ道や古い建物が残る道があり、エアコンの室外機という日ごろあまり意識しないものでも、実際に歩いて見ると、それぞれの場所で特徴があることを発見でき、それを地図化することで、他のグループの先生方にも伝えることができました。今後、身近な地域で調べたことを地図にまとめて表現する学習が重視されることから、今回の講座は貴重な体験となりました。

最後に大西宏治先生の講座では、今昔マップ on

the web の活用を紹介していただいて、実際に新旧の地形図を色分けしながら、土地利用を比較する作業を行いました。他にも地理院地図の紹介や、Google Maps や Yahoo 地図などは教育目的であっても印刷はできないという注意点なども教えていただき、ICT の活用が増えている今日にぴったりの講座でした。

どの講座もたくさんの学びがあり、講師の先生方に感謝します。このような体験ができるマップスキル講座、何度参加しても新しい発見があるマップスキル講座、自分だけではもったいないので、次回は同僚を誘って参加してみようと思います。ありがとうございました。

第28回大阪大会マップスキル講座 「すぐに実践できる地図指導」に参加して

大阪市立城東小学校 教諭 福本 麻紀子

私は、社会科を専門に研究している教員でもありません。また地図に特別に興味や関心があったわけでもありません。ただ、今年度（令和2年度）からの新学習指導要領において、「小学校3年生から地図帳を使う」ことになるということについては知っていたので、案内のチラシを見て「すぐに実践できる地図指導」という副題に惹かれました。とはいえ、社会科を研究しているわけではありませんので「何か役に立つかな。全国的に展開されているこの講座が運よく近くで開催されるというのを知ったのも何かの巡り合わせかもしれない。」と、とりあえず参加してみようという軽い気持ちで申し込みをしました。

この講座は、朝から夕方までの講座です。軽い気持ちで申し込んだものの、開催日は12月27日と年末も押し迫り、当日の朝も足取りは決して軽くはありませんでした。しかし、参加してみると、4人の先生方からプレゼンテーションされる講座はどれも興味深く、「子どもたちとの授業の中で実践してみたい、今すぐ学校でほかの先生方にも教えてあげたい。」という内容でいっぱいでした。参加された先生方と一緒にフィールドワークやワークショップなどを実際に楽しく体験しながら、一日はあっという間に過ぎました。

この講座の案内をご覧になる先生方の多くは、どこかマニアックな社会科に精通した方が集まる講座ではないかと勘違いされ、ご自身には関係ないと思われるのではないかと思います。しかし実際は、私のような初心者の先生方にこそ是非、参加していただきたいと思います。

この講座に参加して一番思ったことは、「地図って面白い!」ということです。私は今まで地図の面白さ、奥深さを子どもたちに伝えられていなかったように思います。それは、私自身がそれらに気づいていなかったからです。

地図といえば、小学校でいえば、都道府県名や県庁所在地を覚えたり、地図記号を暗記したりなど、楽しい思い出ではなく、面白くない辛い知識になっている子どもたちも少なくないのではないのでしょうか。私自身、この講座に参加して、子どもたちにもっと地図を活用した社会科の学習の楽しさ、さらに身近に地図を活用することの良さや便利さを伝えたいと思いました。これからは社会科だけでなく、色々な教科の中で地図の活用を進めながら、子どもたちが問題解決に取り組む必要があることにも気づきました。

「楽しく学ぶ」ということは、主体的に学習をすすめるために、子どもたちにとってとても重要です。そのためにも、指導者がその楽しさを知っていなければ始まりません。私のような社会科が専門でない先生方、苦手意識のある先生方、若い先生方にもおすすめです。きっと授業力の向上に役に立ちます。この講座に参加してみてください。そして、私と同じ感動と学びを手に入れていただきたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしいたくさんの学びを与えてくださったことに感謝いたします。ありがとうございました。

地図の楽しみ方を実感 ～現場で活用するきっかけに～

函館市立えさん小学校 教諭 山田 肇

地図とって何を思い浮かべるでしょうか。国土地理院の2万5千分の1地形図、お住まいの地域の観光マップ、さまざまな施設の案内図、そして学習時に



岩本廣美先生による身のまわりの地図制作



大西宏治先生によるハザードマップ講義

使用する地図帳…どの地図も私たちに多くの情報を発信してくれますが、私がどれだけ活用してきたか問われると疑問が残るところでした。新年度から学習指導要領の改訂により、小学校3年生より地図帳を使用することとなりましたので、今一度、地図帳の活用方法の幅を広げたいとマップスキル講座大阪大会に参加しました。1日に4講座はなかなかハードなものでしたが、どの講座も、実践を見据え、「教師の視点」はもちろん、「児童・生徒の視点」で展開するアクティビティであり、私自身が楽しむことができました。

まず、寺本先生の「新学習指導要領で求められる地図技能と指導法」。講義の中では、3年生にとって8方位を習得することが重要であるとし、先生の掛け声で手ふり運動で8方位の指導法から講座が始まりました。発達段階に応じた町たんけんの細長い短冊用紙の活用などで子どもたちの発見を一元化するなど、実際の指導を意識した実践の紹介ばかりでした。ここでの体験を生かし、現在2・3年の担任となり、生活・社会の町たんけん導入時に「4方位の歌」の歌を作成し、「北に向かってコンニチハ♪右手が東、左手が西、ぐるっと回って南だよ♪」

と子どもたちに指導すると、3年生ばかりか2年生もたちまち歌と踊りで4方位を覚えることができました。さらに3年生には「8方位の歌」を自ら作曲するという楽しい時間を通し、知識として身につけることができました。この講義を通し発達段階に応じた指導が重要であることを再確認したところです。

2つ目の田部先生のドット棒を使った統計地図作成は初めての体験でした。高学年の社会科において、各都道府県の位置や産業・農産物等の生産量の特徴を捉えていくことは重要です。今まではグラフや表を工夫しながらも、一方的に覚えさせる指導をしていました。しかし、今回のアクティビティは実際に地図に点を打ち込み、作業を通し、調査対象が都道府県の位置はも

ちろん、気候や地形が大きく関わっていることに「気づく楽しさ」を見つけることができました。

3つ目は、岩本先生によるフィールドワーク学習でした。新しい学習指導要領において、調べたことを地図にまとめて表現する学習が重要視される中、自ら学習題材を地域から見つけ、地図にまとめていくアクティビティでした。時間はたった40分の中で、会場周辺から課題を見つけ地図にまとめなければなりません。完全に児童生徒の視点に立ち、地図作りの難しさとともに、完成した時の達成感を参加者と共有することができました。この経験を子どもたちに還元していきたいという思いが強くなりました。

最後の大西先生の講座は、ICT教材を活用した地図指導でした。現在、データ社会の中で大容量の情報を教師はもちろん、児童・生徒がPCを操作しながら、精査・比較・検討していくことはとても難しくも重要な学習です。その中で「今昔マップ on the web」というアプリを活用し、今と昔の土地活用を比較できる面白さを私自身が体感しました。また、国土交通省「ハザードマップポータブル」はここ数年続いている風水害に対してどのように対応していくべきか、子どもたちとの出会わせ方に私たちの指導力が問われる重要な教材づくりになると実感しました。

学習指導要領の改訂に伴い、地図帳の使用学年が4年生から3年生となり、地図帳自体も3年生からの使用を意識したわかりやすく、みやすい地図帳へと変容しようとしています。そのような中、「地図指導に工夫をしたいけれど、どう取り組めばよいのかわからない。」と感じている方は、是非ともこの講座への参加をお勧めします。

「百聞は一見に如かず」。

やはり今まで実践を重ねてきた“地図のプロフェッショナル”たちのアクティビティは、現場での「地図帳の活用」をひろげてくれるものとなりました。さらに地図の楽しさを伝えるためには教師自身が地図を楽しむことの必要性を感じる1日となりました。北海道ではアイヌ文化と地名に大きなつながりがあり、豊富な教材が地図の中に隠れています。遠路北海道から参加させていただきましたが、自己研鑽を重ね地図の楽しさを発信していきたいという思いを強めました。ご指導いただいた4人の講師の先生方、さらに本会を設定していただいた事務局の皆様には、このような素晴らしい機会を与えてくださったことを感謝申し上げます。